

再建神社で伝統の舞 浪江で安波祭、「請戸の田植踊」後世に

「東日本大震災の津波で流失した福島県浪江町請戸地区の茗野（くさの）神社が再建され、豊漁と海上安全を祈願する「安波祭（あんばまつり）」が 2 月 18、現地で行われた。

色鮮やかな衣装を着飾った踊り子たちが伝統芸能「請戸の田植踊（たうえおどり）」を披露し、新しく生まれ変わった神社に優美な舞を奉納。県内外から集まった地元住民らは、請戸の記憶と伝統を後世につないでいくことを誓い合った。

社殿は震災の津波で全て流失し、宮司らが犠牲になった。請戸地区は震災後、住宅を新築できない災害危険区域となり、住民らは離散した。「請戸に帰れなくても、請戸に人々茗が生きた証しを後世に残したい」。氏子ら地元関係者が再建委員会を設立し、昨夏から新社殿の建設を進めてきた。地元の請戸芸能保存会も江戸時代から続く伝統を絶やすまいと、震災と東京電力福島第 1 原発事故で避難した町民が暮らしていた福島市の仮設住宅で安波祭を続けてきた。請戸地区の避難指示解除に伴い、2018 年に地元で復活させ、仮の社殿を前に踊りを奉納し、伝統を紡いできた。

この日は神社再建後初めての例祭と竣工（しゅんこう）報告祭を行った後、請戸芸能保存会による神楽の奉納と田植踊が披露された。震災前から田植踊の踊り子を担う請戸出身の横山和佳奈さん（25）は「震災前のような請戸のにぎやかさがよみがえってきた。請戸に帰れなくても、安波祭は私にとって請戸とのつながりを感じる機会だ」と話した。

神社の再建に奔走してきた氏子総代長の五十嵐光雄さん（76）は「ようやくここまで来たという思い。神社は震災でばらばらになった請戸の人々をつなぐ場や、請戸の記憶と伝統を後世に残す場になるだろう」と語った。」（「福島民友」2024 年 2 月 19 日付け）

- ◇浪江町請戸地区は、東日本大震災の津波によって、地域が壊滅した。請戸地区では死者 127 名、行方不明者 27 名が津波の犠牲になった。
- ◇3 月 11 日に、警察と消防団が津波の被災者の救助活動を行う。翌日（12 日）朝 6 時から救助活動をする予定でその夜はいったん解散した。
- ◇福島第一原発事故が予測されたため、12 日から 1 カ月間は津波の犠牲者の救助活動ができなくなった。もしも原発事故が無ければ、助かった犠牲者もいた。
- ◇浪江町の住民（約 2 万 1 千人）は、二本松市東和地区を始め、福島市・郡山市・いわき市の他、全国に避難した。
- ◇田植え踊りは、指導者の佐々木秀子さんが中心になって、被災後 6 カ月後に練習を始めた。全国から踊り手が参集した。
- ◇その後、仮設住宅で田植え踊りを披露した。被災者の多くの人達が涙を浮かべた。
- ◇請戸地区は、災害危険区域になって住宅を建てられなくなった。住民は請戸へは帰れなくなった。
- ◇茗野（くさの）神社は再建されたが、神主も氏子も住民も請戸地区には住んでいない。

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。

携帯：090-5300-4664

メールアドレス p-mia08@outlook.jp



【安波祭の田植え踊り（浪江町請戸地区）】（2024年2月18日撮影）



【安波祭の田植え踊り（浪江町請戸地区）】（2024年2月18日撮影）